



澤上篤人作成

債券は、金利に反比例して価格が上がるので、金利低下時には債券を買う。同時に、どこの国も低金利政策に走る。これは、家計部門から法人部門への強制的な所得移転なの。とにかく今は、企業に頑張ってもらわないと景気は良くならないから、家計は我慢しなさいというわけ。この時は先に話したように、もちろん債券を売って株を買う。こうして、株式→現金→債券→株式……と運用対象を変えることを、「アセットアロケーションの切り替え」と呼び、投資運用の鉄則。景気や金利動向を先取りして投資対象を替えていくことは、時間分散でもあるわけ。長期投資では、これをきちんと行う。それだけで、80%ぐらいの利益が出るわけ。

「アセットアロケーションの切り替え」は、長期投資においては、ものすごく合理的な行動なのよ。ところがこの40年間は株式も債券も、すべて上がって、この鉄則を行う必要がなかったわけ。そうなると、アホみたいにインデックスを持っているだけで儲かったの。債券も持ちっぱなしで良かったの。

だけど、現在の状況が終わりに差し掛かっている。だから、これからはインデックスも債券も駄目になる。

渡部 でも、いい企業の個別株は別ですよ。

本を読んでも、株式投資の本当の面白さはわからない。本質論を語らないと、結局何も理解できない。理解できないと応用がきかない。

この本では、こういった本質論をどんどん語り合っていきたいね。

長期投資で面白いのは、個別株投資だね。アクティブだよ。この面白さを、もっと大勢の人に知ってもらいたいね。特に、これからは面白くなる。

というのも、いまは猫も杓子もインデックスファンド（市場の動きを示す指数に連動した投資信託。以下、インデックス）だが、これから10年ほどは、冬の時代になると思うよ。

なにしろ、インデックスは玉石混交の投資をしているのだから、いまの金融緩和バブルが弾けたら大変。石コロ企業が淘汰されていなくなるまでは、ずっと下がる。その間は、アクティブ投資の定番であり、アクティブが輝くわけ。

この対談は、ちょうどタイミングがいい。個別株投資がどんなに面白いか、2人で、どんどん、これでもか、これでもかと話し合おう。これまでの経験も含めて、たっぷり語り尽くす。

現在、多くの人たちは、インデックス投資なんて、わけのわからないことをやっているわけよ。だけど、「株式投資の面白さは、そんなもんじゃないよ」と。この対談で、2人

で個別株投資の楽しさを語り、真の長期投資は個別株投資にあることを理解してもらおう。

自分の応援銘柄、個別銘柄に、もっと命をかけるよ。そうすれば、株式投資が面白くて止まらなくなる。そんな話をしたい。

渡部 おっしゃるとおりですね。

澤上 これから株式市場は悪くなる。当然、インデックスはひどいことになる。個別株投資の時代が来る。今、この対談は、タイミングが最高だよね。



『会社四季報』の内容は本当に株価に現れている、投資の役に立たないっ。

渡部 長期投資の話に入る前に、まずは、私の歴史というか、自己紹介から始めたいと思います。私は、1990年、平成2年に野村證券に入社しました。大学は、筑波大学の基礎工学類です。入社して最初の10年間は支店営業で、銀座支店で4年、長崎支店で3年半、そして日本橋の本店で2年半、中堅企業および個人投資家向け資産コンサルティングに従事しました。そして2000年に機関投資家営業部に移り、12年間営業をしました。その